

第6次須坂市総合計画策定にかかる第2回庁内WGとりまとめ

チーム			強み・弱み		機会・脅威	シナリオ	シナリオで起こること
			見出し	意見			
最良シナリオ検討チーム	1	強み	健康への意識が高い	・保健補導員発祥の地、経験者7500人 ・要介護認定率、介護保険料が低い ・生活習慣病予防への取組、進んでいる、自主的な活動 ・健康診断の充実 ・体育施設の空きが少ない ・健康補導員の方々などの活動により生活習慣病が原因の死因が少ない ・保健補導員経験者及びその配偶者は医療費が低い ・高齢者の就業人口が高い ・元気な高齢者が多い	先進的な技術が活用される	・スマートフォンやタブレットを活用した診療が可能になる ・重症化が防げるようになることで、社会保障費が減少する	・健康寿命が延びる ・元気な高齢者が増加し、ボランティアのなり手が増える
			住みやすいまちである	・市内に県立高校が3校、須坂駅の利用が多い ・若者世帯向けアパートや戸建ての宅地造成が多い ・スーパー、ドラッグストアが多い ・近隣に温泉地、観光地がある ・日野地区の人口減少が緩やか ・県立病院がある	移住者と交流人口の増加	住環境を充実して移住者が増えることによって、さらに住みやすい街になる	・小児科や産科などの医院が増加する ・空き地が減少する ・中心市街地が活性化する ・生産年齢人口の増加により、税収が増加して新たな施策を打つことができるようになる
			地域のつながりが強い	・長野市が近くベッドタウンとして優秀 ・自治会（公民館も含む）加入率が高く、住民同士のつながりが強い ・社会福祉活動、ボランティアなどへの参加率が高い ・公民館活動が活発に行われている ・各地域での健康向け講座の開催が多く、そのため健康長寿 ・地域による小学生登校時の見守りなどが積極的に行われている			
			安心・安全なまちである	・地域の見守りが出来ている ・高齢化による公共交通の需要増 ・交通事故や犯罪の発生件数が少ない ・保護率が低い			
			その他	・防犯カメラの設置希望が増加している			
		2	生産年齢人口の減少	・高甫、仁礼、豊丘地区での人口減少が大きい ・農業従事者が多く、高齢になっても免許証の自主返納につながらない ・市外から転入する事で受けられる補助金等の事業が弱い ・農業の担い手不足 ・市民一人あたりの市税収入19市中17位			
			社会保障費の増大	・高齢化率の上昇により扶助費の増加 ・健康寿命の期間が短い ・医療費増加傾向（重症化まで受診していない？） ・国保医療費が増加傾向 ・スポーツ人口の減少			
			地域防犯力の低下	・高齢化により地域の見守りボランティアの活動が減少している ・高齢者の一人世帯の増加と同時に地域の見守りが難しい（個人情報） ・派出所の閉鎖			
			公共交通の利用者が少ない	・少子化による小学校下校時の一人歩き区域の増加 ・自家用車所有率が高く、公共交通の利用に慣れていない ・生活・観光のための交通機関の不足 ・人口減少による公共交通の利用者減	先進的な技術が活用される	・AIの活用によって利用者の希望に沿った公共交通の運用が可能になる	・自動運転によって交通事故が減少する ・外出の機会が増え、消費が増加する。
			小児科・産科が少ない	・産科が少ない ・医師・病院が少ない ・出生率が他市と比べ低い			
			その他	・公民館の利用者が固定化、地域の広がりが少ない ・多種多様な場所で講座・講演会を開催、このため参加者の取り合い ・施設老朽化による維持コストの増加			
	2	強み	住みやすい、働きやすい	・人口減少している中、市税収入の変化は少ない ・雇用率が高い ・居住意欲度は知名度より高い ・鉄道が走っている。通勤、通学で利用がある。 ・市内に多くの高校や企業がある			
			防災力が高い	・消防団員数が比較的多く、防災力が強い。災害時特に。	先進的な技術が活用される	消防署員・団員にパワースーツが支給され最強のファイヤーレスキューが誕生する。AI等による災害の予測技術が発達して事前準備ができるようになる	・須坂市がより安心して暮らせる街になる ・須坂市の二次災害が少なくなる
			土地利用が良くされている	・歴史的景観、田園、自然が残されている地域がある ・これまでの都市計画により無秩序な開発はされていない ・市街地中心にコンパクトな都市			
			市民の健康意識が高い	・農業が盛ん。高齢者の就労、高齢者の健康 ・人口当たりの保健師数が多い	多様な人材の活用、多様な働き方の選択が進む	・定年を過ぎても生産現役で働ける ・外国人、子育て中、介護中の人でも仕事ができる ・市民全員が社会参加できるようになる ・市民全員が給料をもらえてリッチになる結果、消費需要が維持される	・健康寿命が延伸する。
			子育て・教育環境が良い	・全体的な学力向上に向けて取り組んでいる ・学力向上に意欲的			
		弱み	交通の便が悪い	・都市計画道路の整備率が低い ・長野へのアクセス道路が渋滞 ・2本の橋に交通が集中 ・道路の渋滞			
			医療資源が乏しい	・救急発生件数が年々増加している ・高齢化率の上昇とともに出勤による病院搬送が増加し病床数が足りない ・小児科が少ない ・病院・医師数が少ない			
			人口が減少している	・空家増加により空洞化・スポンジ化 ・空家の増加3,200軒（2015） ・公共施設利用者の減少 ・1校あたりの児童数が減少している ・坂道が多く交通弱者が生じやすい ・公共交通利用者の減少	移住者と交流人口の増加	移住者の増加により、空きスペースの利用が増え、町のにぎわいが生まれる。交流人口が増加することによって、ブランド力が上がり、国際的な都市になる	
			教育人材が不足している	・教員一人あたりの児童数が多い ・得意分野（教科）の更なる向上の取組みがあまりされていない ・政策、政治への意識が低い	多様な人材の活用	それぞれの特性、ニーズに合った教育を行うことが可能になり、個別対応、ピンポイントな対等が可能になる	・若い世代の人口が増加する 学力が向上する
			その他	・有名なスポーツ大会の等の開催がない ・Uターン就職の割合が2～3割 ・知名度が低い ・宿泊施設の茅派シティが小さい			
	3	強み	健全財政を維持している	・市債残高における財源の内交付税措置比率が高い ・市民一人あたり市債残高が少ない ・市民一人あたり公債費が少ない ・健全化判断比率では、健全化団体である ・将来負担率が低いため世代間公平性や健全性は高い水準			
			都市・まちがコンパクトである＝便利である	・小規模都市であり、可住地面積における人口密度が高いためコンパクトなまちである ・長野市のベッドタウン ・比較的コンパクトな都市であるため、公共事業の効果が高い ・可住地面積に対する人口密度が比較的高いコンパクト都市 ・人口密度も高いため、まちづくり事業などの満足度が高くなる ・IC周辺開発により、須坂市を中心に北信地域が活性化			
			医療・福祉（特に高齢者）が充実している（地域の支え合い力が高い）	・医療・福祉に須高地域の連携がある ・介護保険料が安い ・要介護認定率が低い ・50～60代のリタイア組の転入が増えている ・自治会加入率が高く、顔の見える関係	外国籍住民、女性、労働者等の多様な人材・働き方が広まる（都市間競争に勝って人口が増加する）	多様な人材の流入によって、一層地域の結びつきが強化され、地域の活力が増す	・まち中に若者が増えて、多様なコミュニケーションが生まれ、賑わいが創出される ・コミュニケーションを取る場所に対する需要が高まり、飲み屋街が賑わう ・医療人材の確保が進み、信州医療センターが維持される
			教育を受けやすい環境の充実	・小中学校1校あたりの児童・生徒数が少なくなっているため、よりきめ細かい教育ができる ・特別支援学校の教諭や加配職員などで教育を受けやすい環境が整っている ・小学校が点在しているため、通学がしやすい。また、友達が近所になりやすい（避難所として利用しやすい）			
			自然・土地条件が整っており、農業が盛んである	・ブドウの生産が多く、新規就労者が増えている印象がある ・（農業）付加価値の高い果実の生産が盛ん ・扇状地であるため水資源は豊か。また、井戸などは水質も比較的良好 ・農業においては果樹栽培が盛ん ・自然が多く残されている（山・水路・畑・田んぼ） ・生活環境の維持に努めている	外国籍住民、女性、労働者等の多様な人材・働き方が広まる	自然条件を活かした農業が、多様な人材の活用によって担い手を確保し、持続的に発展する	・耕作放棄地が解消される ・担い手不足の解消 ・市場の拡大
			その他	・職務命令を遵守している ・職員が減ってきているがみんな頑張っている ・性別による固定的な役割分担意識が変化してきている	AI・IoT・ICTの導入	・人手不足の解消や耕作放棄地の活用がはかられる ・新たに活用できる余暇時間が増加する	・副業が広まる ・ICT技術への就職口の増加 ・JAを通さない直販が増える ・食糧自給率が向上する ・大規模経営の農家が増加する

		弱み	観光施設が整備されていない	・観光施設、公共施設に段差が多い ・須坂駅前がわかりにくい ・障がい者用トイレが少ない ・無料（低価）で集える広場や温泉が無い（遠い） ・田中本家博物館の入場料が高い ・芸術的、文化的な思考が低い					
			公共交通の整備が不十分	・公共交通の弱体化 ・免許返納する高齢者が増えていくが、公共交通の整備が十分とは言えない ・車が無いと生活しづらい					
			空き家、空きスペースの増加	・昔からの地域は道路が狭い ・年々、空家が増えてきている ・シルキーを活用して欲しい ・商圏は長野市に入っているため、日用品以外は長野市へ買物に出してしまう ・各地区でみると、人口密度が低い方向に進んでいる ・開発できない状況の宙に浮いた土地が目立つようになってきた ・ICT・サービス業関連における就職口の発展が小さい ・将来の地元就職やUターンする若者が増えて欲しいが、なかなか市内企業で就職が難しい ・市民一人あたりの市税総額が少ない ・税の徴収率が低い ・世帯当り空家数は多くないが、可住地面積当りの空き家数は多い ・耕作放棄地が増えている（担い手不足、空家と同じく所有者がいなくなる） ・医療施設と医師数が少ない					
			若者、女性の人権→活躍の場がない、にくい	・人口減少、人材不足、女性が活躍しにくい ・地域や社会通念、しきたりなどについて不平等感はある ・自治会長0人、女性割合0% ・若者世代が（10代後～70代前）市内での活動が少ない ・若者を引き寄せる核がない ・子育てに対する環境、安心が低い ・各種団体の高齢化、団体数の減少、世代交代困難 ・職務命令を遵守せざるを得ないため、新たな取組や改革する力がない ・事業の見通しや廃止などがしづらい環境である ・様々な分野における指導的地位にある女性比率は低い現状が続いている					
			施設更新、維持管理費への不安	・市民一人あたりの人件費が高い ・経常収支比率が高く19市中19番目 ・児童が少ないため、空き教室が出ており一人あたりの修繕費が高くなってしまふ ・山間地域は住居が点在しているため、公共事業の効果が低くなりがち ・市役所庁舎の建替えを周囲と同調せずしなかったため、老朽化している ・公共施設の延べ床面積を減らさない方針のため、人口減少に伴い市民一人あたり延べ床面積が増えてゆく ・児童・生徒数は減ってゆくの、学校の統廃合について検討していないため、全体的な教育コストが高くなっている ・住居が密集している為、道路工事による補償費が高くなる ・千曲川沿いに軟弱地盤の層があるため、インフラ工事や建築物を作るときに比較的多くの費用が必要 ・公共施設の更新、老朽化に対する財源が少ないため進まない ・思い切った公共施設の計画運営ができない（長期的計画）					
最悪シナリオ検討チーム	1		健康なお年寄りが多い	・医療・介護・行政の風通しがよい ・保健補導員制度発祥の地 ・介護保険料が低い ・介護給付費が低い ・元気な高齢者がまだまだ多い ・要介護認定率が低い	働き口が少ない	健康な高齢者の活躍の場が少なく、活力を失っていく	・不健康な生活になり、要介護認定率が上昇する。社会保障費が増加する。		
			地域のつながりが強い	・地域での支え合いの気持ちが強い ・ボランティアで行政に協力してくれる人がいる ・お互い様の意識が残っている ・人権に関して学習会を通じて考えている人が比較的多い ・ヘイトスピーチなど人権に関しての差別的な発言や行動が見られない	担い手が高齢化し、参加者が固定される（若者が参加しない）	地域でのつながりに若者が増えず固定的な参加者ばかりになり、活動が停滞していく	・孤独死が増加する	・新しい人材が一層入りづらくなる	
			美味しい果物が多い	・須坂発祥ブランドがある（ナガノパープル） ・利益が高い果物がとれる ・フルーツが美味で種類も豊富 ・美味しい果物がたくさんとれる ・農家当たりの農業生産額が他市より高い（果樹） ・利益が高い果物がとれる	多様な人材を活用できない	農業の後継者が見つからず、担い手が高齢化。多様な人材が受け入れられず人口が減少する	・農業が衰退し、耕作放棄地が増える	・農業の産出額が減り、税収が減る	
			個性的なお店がある	・ワイナリー、酒蔵、フルーツブルワリーが揃っている ・仙仁温泉、遠藤酒造場、味噌蔵が多い ・個性的でおしゃれな店舗が増えた ・古民家の店が増えている（空き家の減少）					
			子育てしやすい	・緑があり、子育てしやすい ・スポーツをする環境が整っている ・人口に比べて小学校数が多い ・山がきれい、槍ヶ岳も見える ・ちょうどいい田舎生活（不便でなく、自然もある） ・ヤマメ釣れる ・ベッドタウン（静か） ・地味（観光地でない） ・雪が少ない	合理化が進み、学校や病院までが統廃合される	学校の統廃合によって、子育てしやすい環境が失われる	・住みにくい地域が出てくる	・市外に人口が流出する	
			アクセスが良い	・長野市に近い（ICがある） ・IC周辺開発により税収UP見込める ・長野市の横に位置している					
			その他	・コンパクトシティ ・コンパクトなまち（集約されている） ・大企業1社に財政依存していない安定的な財政運営 ・企業同士のつながりがある（団地組合や研究会がある） ・土地が傾斜 ・古い建物が多い					
		弱み	観光地としての魅力がない	・商売下手（営業力がない） ・魅力的な店が無い ・食べ歩きできるものがない ・加工品のラベルに特徴がない ・ブランドがない（加工食品が少ない） ・須坂＝〇〇というものがぼんやりしている ・観光地がまとまった場所がない ・登りたい山がない					
			税収が少ない	・徴収率が19市中18位 ・大きな税収を期待できない ・固定資産税収入19市中ダントツのビリ ・製造業従事者一人あたりの付加価値が19市の中で特に低い ・生産→加工→販売が少ない ・人口ピラミッドの生産人口少ない	都市間競争に負ける	都市間競争に負けて移住者が増加せず、税収が一層減っていく	・移住者が増加せず、空き家が増える。	・商店が減る。	・税収が一層減る。
			人口減少	・出生率が19市中15位 ・空き家が増加傾向 ・ボランティア活動している人の高齢化 ・ボランティアで協力してくれる市民の固定化 ・自治会の協力が困難な状況が発生 ・ボランティア協力の人を探し出す手だてが少ない					
			住みづらい	・図書館が狭い ・大学がない ・旭ヶ丘・望岳台の道が狭い ・道路や家と家の間が狭い（渋滞しやすい） ・病院数が少ない ・買物弱者（外出）が農村部に多い ・土地が狭い ・L.G.B.Tについてまだまだ学習不足 ・老人福祉施設従事者が少ない ・免許返納後の対応がない ・自殺者が多い					

